

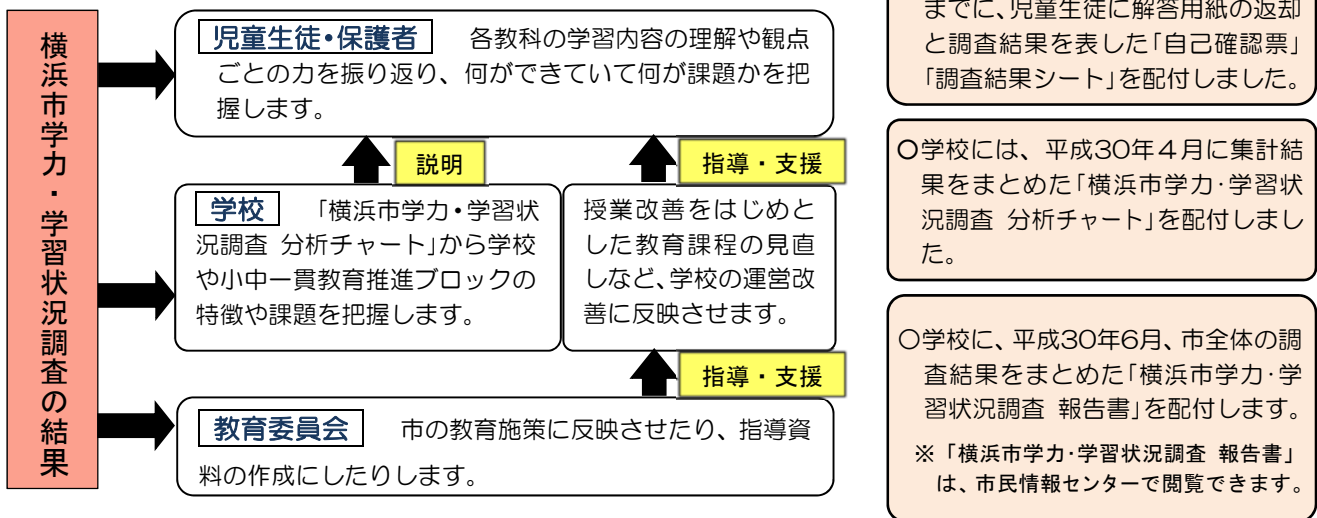
## 「平成29年度横浜市学力・学習状況調査」の結果がまとまりました。

本市では、毎年、市立の全小中学校の児童生徒約26万人を対象に、学力調査と生活・学習意識調査を行っています。この調査の結果を、児童生徒・保護者と学校で共有し、児童生徒の学力向上や教員の授業改善等に役立てます。教育委員会では市の教育施策や学校への支援に活用していきます。今回の調査の結果につきまして、「横浜市学力・学習状況調査 報告書」にまとめました。

### 調査の実施概要

調査対象	小学校 第1～2学年	小学校 第3～6学年	中学校 第1～2学年	中学校 第3学年
	義務教育学校 第1～2学年	義務教育学校 第3～6学年	義務教育学校 第7～8学年	義務教育学校 第9学年
調査実施日	平成30年2月8・9日		平成30年2月22・23日	平成29年11月9・10日
調査教科	国語, 算数 (2教科)	国語, 社会, 算数, 理科 (4教科)	国語, 社会, 数学, 理科, 外国語 (5教科)	国語, 社会, 数学, 理科, 外国語 (5教科)

### 調査の目的・活用



### 今回の調査の結果から ※「横浜市学力・学習状況調査 報告書」からの一部抜粋

#### 「教科別調査結果」より

1 小学校第6学年・中学校第3学年の各教科の「基礎・基本問題」と「活用問題」の調査結果は、以下のとおりです。

#### 【資料1】「基礎・基本問題」、「活用問題」の平均正答率(%)

※小学校では、「基礎・基本問題」の想定正答率はおおむね65～75%、「活用問題」はおおむね55～65%としています。  
中学校では、「基礎・基本問題」の想定正答率はおおむね65～75%、「活用問題」はおおむね50～60%としています。

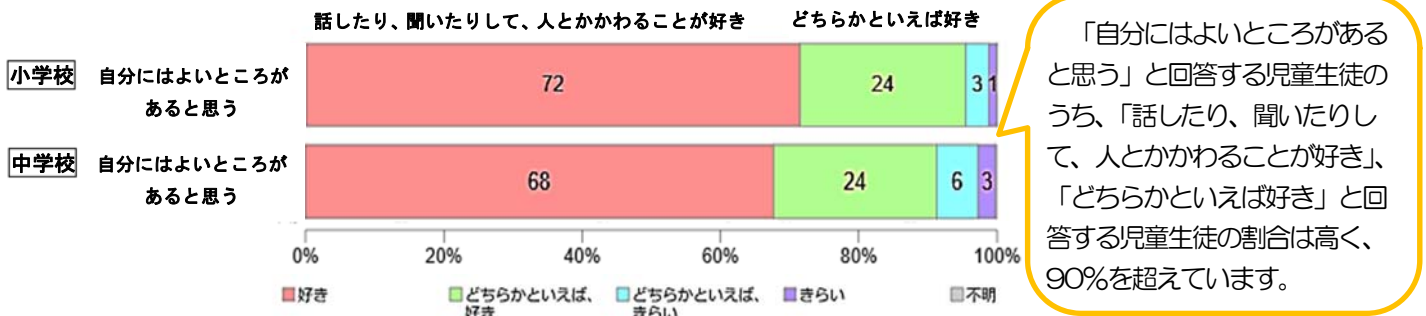
学年	小学校第6学年・義務教育学校第6学年								中学校第3学年・義務教育学校第9学年									
	国語		社会		算数		理科		国語		社会		数学		理科		外国語	
基礎・基本/活用	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活
平成29年度	70	49	79	76	70	44	65	62	69	51	59	57	70	42	62	45	69	33

裏面あり

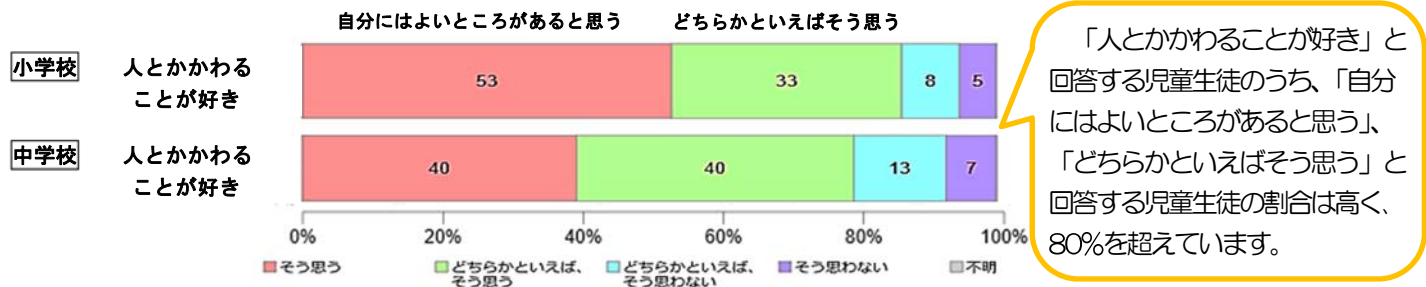
「学力・学習状況調査と生活・学習意識調査とのクロス集計結果」より

2 人とのコミュニケーションへの意欲と、児童生徒の自己肯定感は、密接に関わり合っています。

【資料2】「自分にはよいところがあると思いますか」 × 「話したり、聞いたりして、人とかかわることが好きですか」



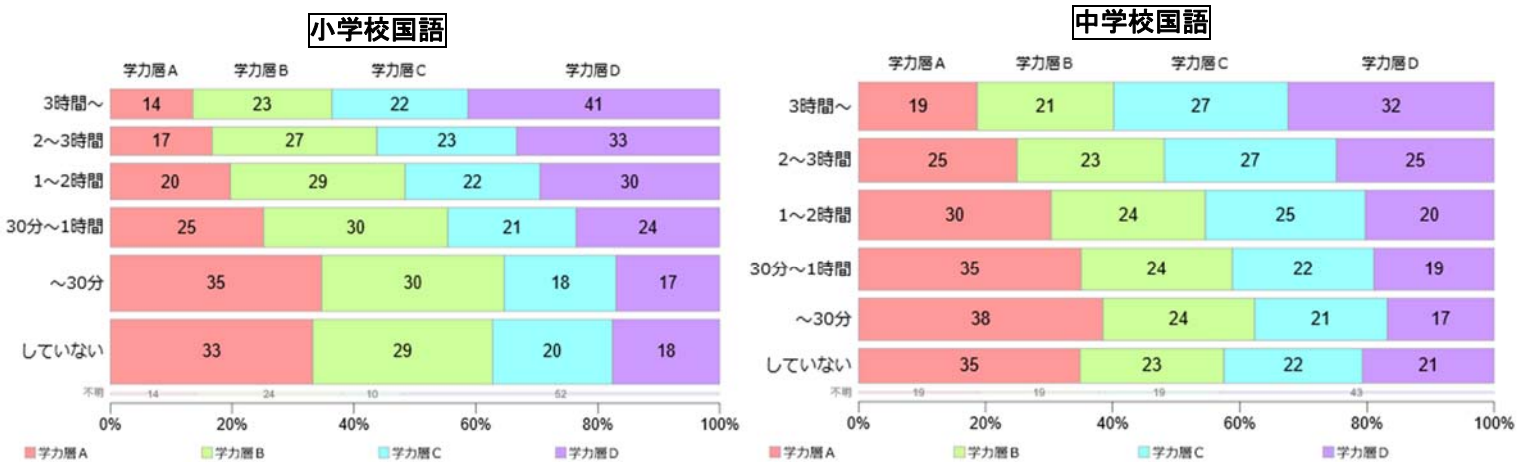
【資料3】「話したり、聞いたりして、人とかかわることが好きですか」 × 「自分にはよいところがあると思いますか」



「自分にはよいところがあると思う」で示された自己肯定感と、「人とかかわることが好き」で示されたコミュニケーションの意欲は相関が見られます。学校や家庭、地域の中で、人との関係づくりや、コミュニケーションを図る場面を意図的に設定して、自分の発言が受け入れられたり、互いを認め合ったりすることが、自己肯定感を育むために有効であると考えられます。

3 携帯電話やスマートフォンの使用時間と学力には関わりが見られます。

【資料4】「1日に、携帯電話やスマートフォンを操作して、インターネットやメール、SNSをどれくらいしていますか」 × 「学力層 ※」（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く。）



※ 学力層とは調査の対象となる児童生徒数を正答率で4分割したもの。「学力層A」が上位。

携帯電話やスマートフォンの使用時間を学力層で見ると、携帯電話やスマートフォンの使用時間が長くなるほど、学力に影響する傾向が見られます。家庭において、時間やルールを決めて使うことが望まれます。